

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成26年11月20日(2014.11.20)

【公開番号】特開2013-104878(P2013-104878A)

【公開日】平成25年5月30日(2013.5.30)

【年通号数】公開・登録公報2013-027

【出願番号】特願2011-246119(P2011-246119)

【国際特許分類】

G 1 0 H 1/00 (2006.01)

【F I】

G 1 0 H 1/00 Z

【手続補正書】

【提出日】平成26年10月3日(2014.10.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 1】

複数の単位区間の各々について旋律が付与された楽曲を生成する装置であって、

楽曲のコード進行を指定するコード進行データを取得するコード取得手段と、

前記複数の単位区間の各々について、前記コード進行データが指定する当該単位区間のコード進行と旋律データが指定する旋律との関係に応じた旋律評価値を、相異なる旋律を指定する旋律データ毎に算定する旋律評価手段と、

前記複数の単位区間の各々について、当該単位区間における前記各旋律データの旋律評価値に応じて前記複数の旋律データの何れかを選択する旋律選択手段と

を具備する楽曲生成装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

本発明の楽曲生成装置は、複数の単位区間の各々について旋律が付与された楽曲を生成する装置であって、楽曲のコード進行を指定するコード進行データを取得するコード取得手段（例えば情報取得部 32）と、複数の単位区間の各々について、コード進行データが指定する当該単位区間のコード進行と旋律データが指定する旋律との関係に応じた旋律評価値（例えば旋律評価値 EA）を、相異なる旋律を指定する旋律データ毎に算定する旋律評価手段（例えば楽曲生成部 34 / 旋律評価処理 S13）と、複数の単位区間の各々について、当該単位区間における各旋律データの旋律評価値に応じて複数の旋律データの何れかを選択する旋律選択手段（例えば楽曲生成部 34 / 旋律選択処理 S15）とを具備する。以上の構成では、楽曲のコード進行を指定するコード進行データに応じた旋律評価値が旋律データ毎に算定されて旋律データの選択に反映される。したがって、歌詞の韻律に対応するように楽曲の音符列が制約される非特許文献 1 の技術と比較して、音楽的に自然で多様な楽曲を生成できるという利点がある。なお、本発明における「旋律」は、複数の音の時系列（音の並び）を意味する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 1 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 1 1 】

以上の各態様に係る楽曲生成装置は、専用のDSP (Digital Signal Processor) などのハードウェア (電子回路) によって実現されるほか、CPU (Central Processing Unit) などの汎用の演算処理装置とプログラムとの協働によっても実現される。本発明に係るプログラムは、複数の単位区間の各々について旋律が付与された楽曲を生成するために、コンピュータに、楽曲のコード進行を指定するコード進行データを取得するコード取得処理と、複数の単位区間の各々について、コード進行データが指定する当該単位区間でのコード進行と旋律データが指定する旋律との関係に応じた旋律評価値を、相異なる旋律を指定する旋律データ毎に算定する旋律評価処理 (旋律評価処理 S13) と、複数の単位区間の各々について、当該単位区間における各旋律データの旋律評価値に応じて複数の旋律データの何れかを選択する旋律選択処理 (旋律選択処理 S15) とを実行させる。以上のプログラムによれば、本発明に係る楽曲生成装置と同様の作用および効果を実現される。なお、本発明のプログラムは、コンピュータが読取可能な記録媒体に格納された形態で提供されてコンピュータにインストールされるほか、通信網を介した配信の形態で提供されてコンピュータにインストールされる。